

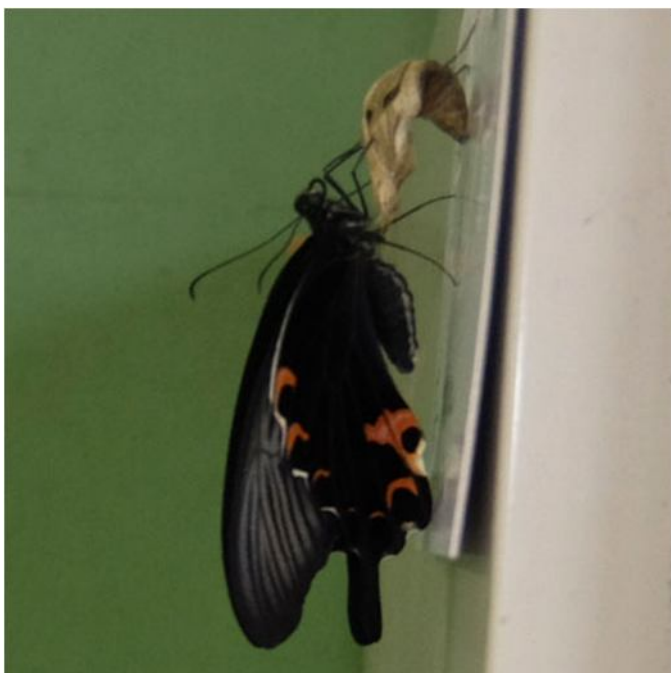
「サナギから羽化へ (9)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ナミアゲハの羽化も劇的だが、クロアゲハの羽化にあっては、もう芸術的ともいえる美しさを見せる。



これは羽化寸前のクロアゲハのサナギである。ミカンの葉を逃げ出して、チョークの粉まみれになっていた、あのクロアゲハである。最初は教室からベランダへ出る扉のサッシでサナギになっていた。そのままでは危ないので、私が「サナギホルダー」にして、掃除ロッカーに貼っておいたものだ。ナミアゲハのサナギに比べると、大きく立派で、角(頭部の2つの突起)も大きい。



そのクロアゲハが、いよいよ羽化の日を迎えた。羽化の一瞬は、私も子どもたちも教室にいなかったので、サナギの殻を破る一瞬を見ることはできなかった。気づくと、掃除ロッカーの側面で羽化し、すでにサナギの殻につかまって翅を乾かしていた。



翅をゆっくり開閉しながら3時間ほどすると、すっかり展翅し、すばらしいクロアゲハの姿になった。実に美しく、風格があるチョウである。背の部分にビロード状の細毛があるのも特徴である。幸いまだ飛ぶまでには時間がありそうだ。



私は、サナギホルダーごと、慎重に教室の前面黒板に移動した。特に指示したわけではないが、子どもたちは思い思いに観察カードを描き始めた。このような自主的な観察活動は、3年生の子どもたちでは、普通に見られる行動である。

床に置かれ、子どもたちが机がわりに使っているものは「サークルベンチ」という。日々のサークルスピーチや、てつがくサークルの時に使うものだが、使い方は多様で、実に便利である。